

ステパノの殉教④—宣教(3)モーセ

使徒の働き7章20-36節
2015,11,15

概観

序)①アブラハムの契約とヨセフ②エジプトでのユダヤ人③モーセの試練

- 1、誕生・王宮での生活 V20-22
- 2、同胞愛・殺人・荒野 V23-29
- 3、燃える芝・神の召命 V30-35
- 4、結論・適用・祈り

I 誕生・王宮での生活

- 1、エジプトでのユダヤ人 出1:8-14
 - 2、誕生の経緯 2:1-8
 - 3、王宮での生活 2:9-10
- ⇒祭司の国の建国という神様のご計画のために祝福と困難が用いられモーセには人知を超えた神様の訓練(母からの信仰+エジプト文明)がなされた

II 同胞愛・殺人・荒野

- 1、契約の民への愛 出2:11-15
 - 2、同胞愛からの殺人
 - 3、荒野 16-22
- ①同胞の反発とパロの追及
 - ②荒野への逃亡と家族
 - ③契約への信頼
- ⇒モーセが神の器になるためには母からの信仰+エジプト文明だけでなく試練が必要だった

III 燃える柴・神様の召命

- 1、燃える柴 出3:1-3
 - 2、神様の召命と派遣 3:4-15
- ①神様を主とする 4-6
 - ②神様の愛と誠実 7-9
 - ③神様の派遣 10-11
 - ④神様の保証(しるし) 12 創39:2-3
 - ⑤神様の自己啓示 13-15
- ⇒川に流され、同胞に追放されたモーセがイスラエル救出に用いられる まるでイエス様の予型のように マタイ21:42

IV 結論・適用・祈祷

どんなに教育があり、同胞愛があっても神様に用いられるためには神様により頼むことが必要 主はそのような神の器とともにいてくださる

「神様、私が自分の知恵や力に頼らず、神様を主とする者として下さい 霊的な備えと同時に世での経験・失敗・試練をも用いて下さい へりくだりより頼む時、主がとともにいてくださることを信じます」